

経済・金融 フラッシュ

家計調査 14年4月～駆け込み需要の 反動の影響は5月以降も残る可能性

経済研究部 経済調査室長 斎藤 太郎

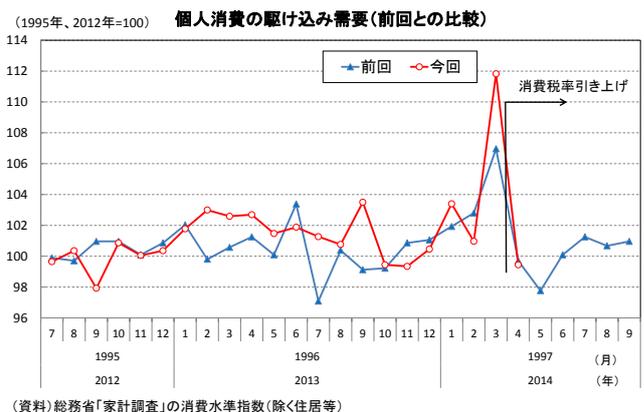
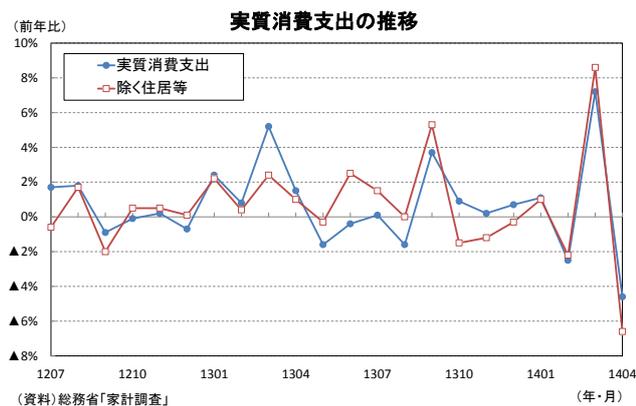
TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 駆け込み需要とその反動は前回増税時を上回る

総務省が5月30日に公表した家計調査によると、14年4月の実質消費支出は前年比▲4.6%（3月：同7.2%）となり、事前の市場予想（QUICK集計：前年比▲3.2%、当社予想は同▲4.6%）を下回った。月々の振れが大きい住居、自動車などを除いた実質消費支出（除く住居等）は前年比▲6.6%であった。

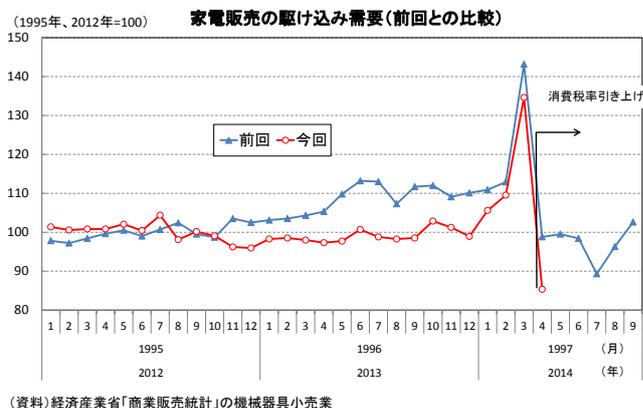
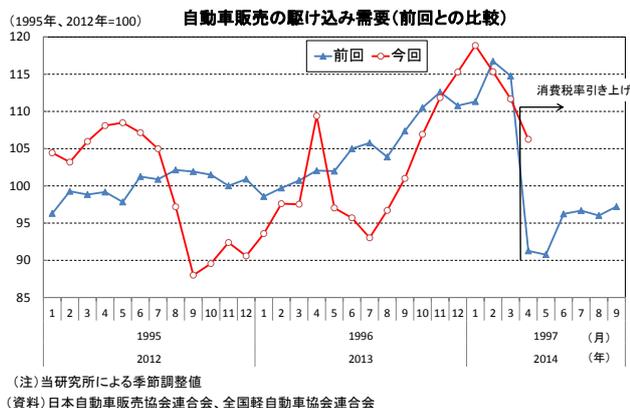
実質消費支出の動きを項目別に見ると、食料（前年比▲6.9%）、家具・家事用品（前年比▲18.7%）、被服及び履物（前年比▲6.0%）が大きく落ち込んだ。家具・家事用品は、電気洗濯機（3月：前年比361.7%→4月：同▲26.2%）、ポリ袋・ラップ（3月：前年比61.7%→4月：同▲18.9%）、トイレットペーパー（3月：前年比59.4%→4月：同▲32.4%）など、駆け込み需要が大きかった品目が多く含まれているため、その分反動減も大きくなった。

前回の消費税率引き上げ時（97年3月：前年比5.8%→4月：同▲1.0%）と比べると、増税直前の増加幅、増税直後の減少幅がともに大きくなった。実質消費水準指数（除く住居等）で見ても、同様の結果で、14年3月に前月比10.8%と急増した後、4月は同▲14.2%の急減となった。個人消費に関しては駆け込み需要、反動減の規模が前回よりも大きかったことを示している。



駆け込み需要が特に大きかった耐久財について、家計調査以外の統計から反動減の状況を確認すると、自動車販売台数は14年1月をピークに3ヵ月連続で前月比減少となっている。前回の増税時と比較すると落ち込み幅は小さいが、増税前に高水準の受注残を抱えていたことが下支えになっ

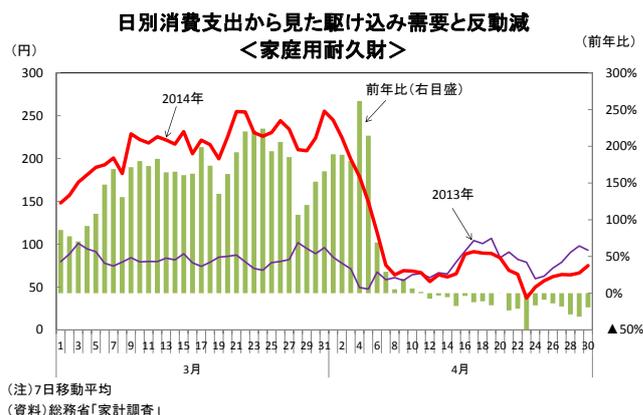
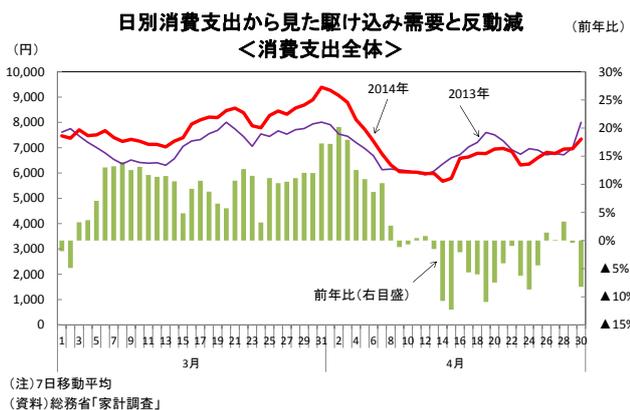
ていた面があり、5月以降はさらに大きく落ち込む可能性がある。家電製品については、パソコンは「ウィンドウズXP」のサポート終了に伴う買い替え需要が残っていることから4月も販売増が続いているが、冷蔵庫、エアコンなどそれ以外の製品では反動減が顕在化している。「商業販売統計」の機械小売業の販売額は3月には前月比22.9%の急増となったが、4月は同▲36.6%の大幅減少となった。



2. 5月以降も反動の影響が残る公算

駆け込み需要の反動減の状況を「家計調査」の日別消費支出から確認すると、4月末にかけては減少幅が縮小する兆しが見られるものの、反動の影響が一巡したとはいえない。特に、電気冷蔵庫、電気洗濯機、エアコンなどの家庭用耐久財は月末にかけても大幅な減少が続いている。また、14年4月は消費税率引き上げに伴う物価上昇によって金額がかさ上げされているため、実質ベースの消費水準はさらに下がっていることになる。

反動による落ち込みの大きさは4月が最大となる可能性が高いが、5月以降も耐久財を中心にその影響は残る可能性が高いだろう。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。